

強化と充実』についてであります。経済は、生活の基本であります。本市の農業は、狩野川流域の平野部を中心に、米や野菜、イチゴ・トマトなどを生産する都市近郊型として展開されているほか、山間地の一部では、高原蔬菜作りや畜産業が営まれています。しかし、日本全国共通の認識として、従事者の高齢化や後継者不足、生産高の減少など、第一次産業を取り巻く現状は厳しいものとなっています。このような中、消費者ニーズに配慮した地域農業を支援するとともに、伊豆の国ブランドの確立や観光との連携など、多面的な農業振興が求められております。こういったことから、農業の6次産業化とニューファーマーの増員・育成、中山間地の農業の促進を図ることと、本市の美味しい農産物の生産拡大を目指してまいります。かつて、あれほど光芒を放っていた伊豆半島は、それをどこに置き忘れてしまった

のか、基幹産業の観光分野は、長期にわたって低迷しております。現在、伊豆全体で世界ジオパーク加盟に向けた取り組みが進んでいる中、地域内におけるジオパークビクターセンタ―設立が望まれていることから、この実現について関係機関に働きかけてまいります。また、韮山反射炉の世界遺産登録を目指し、今後も関係自治体や関係機関との連携を深めてまいります。江川文庫の書画、典籍、古文書や、願成就院の運慶作諸仏など、本市には全国に誇る国宝や重要文化財が数多くあり、これらを地域の宝、市民の宝として守り、全国に発信してまいります。経済の発展には、交通網を生かしたまちづくりが不可欠であります。幸い、本市は地形的に恵まれております。昨年4月には新東名高速道路が開通し、さらに来春には、東駿河湾環状道路も開通します。これにより、首都圏から伊豆の国市への交通アクセス

は、飛躍的に改善されますので、これらを活用した効果的な誘客に関係団体と連携し取り組みでまいります。また、伊豆箱根鉄道駿豆線の駅周辺を有効活用していくことも発展のカギだと考えております。特に、伊豆長岡駅は、1日当たりの乗降客数が約5千人と利用者の多い駅の一つで、沼津・三島方面への通勤、通学だけでなく伊豆長岡温泉や地域の拠点病院であります順天堂大学医学部附属静岡病院への入り口となっております。まさに伊豆の国市の玄関口であります。この駅に隣接する南條交差点を含めて、地域の魅力を高めていくための周辺整備について取り組んでまいりたいと考えております。地域経済の振興には、新しい企業の立地や既存企業の活性化が不可欠でありますので、県や商工団体と緊密な連携を取り、企業誘致や経営安定化への支援などを進めてまいります。

子育て支援・少子化対策・女性の就業支援 次に、3.『子育て支援・少子化対策・女性の就業支援』についてであります。伊豆の国市の将来を担う子どもたちの育成支援は、市政の重要なテーマの一つと位置付け、積極的に取り組んでいくとともに、育児の悩みや、子どもの健康状態に関する相談窓口などを充実させ、孤独な子育てを解消してまいります。また、妊娠期における母子の健康確保や乳・幼児期の健康管理を進め、安心して健やかに子どもを産み、育てられる支援体制をつくります。女性の就業を促進していくためには、子育て環境を整備し、支援していくことが重要であります。そのために、保育所と学童保育の充実に取り組んでまいります。障害のある人と障害のない人、だれもが健康で生き生きと暮らす社会をつくることは、私たちの願いであります。

市議会6月定例会の初日に、小野市長が就任の所信表明を述べました。

秘書広報課
☎055(948)1431

小野市長就任 所信表明

小野市長所信表明
平成25年6月10日
私は、本年4月21日執行の市長選挙において、多くの市民の皆様から厚い信任をいただき、伊豆の国市長として市政のかじ取りを担わせていただくこととなりました。選挙期間中はもとより、就任後も市民の皆様と対話を繰り返し続けてまいります。市政に対する真剣な思いがひしひしと伝わってまいりまして、改めて責任の重さを全身で感じているところであります。今後4年間、これらをしっかりと受けとめ、常に『平等、公平、クリアな政治』を実行するという、初心を忘れることなく、市長として全力を尽くす決意を強く持った次第であります。私は、住民の皆様の最も身近な自治体に寄せる思いに応えるため、旧韮山町議会議員として、また、ここ伊豆の国市を視野に入れたつ、県全体、県民のために県議会議員として議員活動に取り組んでまい

りました。これからは、議員から市長へとその立場は変わりますが、私の『伊豆の国に一生懸命』という気持ちはだれにも負けません。そして、これからの市政運営にあたって重点方針として掲げた『七つの命題』に沿いまして、所信を述べてまいりたいと存じます。安全・安心の暮らしを実現 まず、1.として、『安全・安心の暮らしを実現』についてであります。安心は、政治の基本であります。たびたび交通事故の犠牲者となる子どもや高齢者の大切な命を守るため、児童の通学路をはじめ交通安全施設の整備などを進め、交通安全の徹底を図ってまいります。現在、地球規模での環境問題が深刻化しております。本市のごみ処理施設は老朽化が進行していることから、新たな施設を造ることが急務となっております。しかし、ご

みの処理は住民の安全・安心に直接関わることであります。住民の納得のいく形で進めなければならないと考えています。そのために、伊豆市との連携を維持しつつ『広域一般廃棄物処理施設のあり方市民検討会』の議論と併せ、建設候補地の公募方式なども考えてまいります。なお、旧スポーツワールド跡地は、伊豆の国市の発展のために大切な財産でありますことから、候補地としては白紙とし、観光、産業、公園、スポーツなど幅広い選択肢の中から、市民や伊豆の国市を来訪する方々が、本心に潤いを体感できるところにしていきたいと考えております。その他、市民が安心して生活できるよう、大気や水などの環境対策に取り組んでまいります。農業・観光・産業経済・雇用対策の強化と充実 次に、2.として、『農業・観光・産業経済・雇用対策の強化と充実』

発達障害の児童・生徒に対する療育施設の充実を図るとともに、障害のある人の就労支援を進めてまいります。

教育・人づくり・スポーツ振興と文化のまちづくり

次に、4.『教育・人づくり・スポーツ振興と文化のまちづくり』についてであります。人づくりは、まちづくりの基本であります。そのためには、未来を担う子どもたちの教育環境の充実が重要であります。とりわけ、市内の中学校の児童生徒の内、通学が遠距離となるためバス通学を余儀なくされている方々がおります。そういった方々のバス利用料金の負担の解消を図っていきたいと考えております。

また、学校施設・設備の整備、スポーツ少年団の指導者の育成など、体力づくり・心づくりの応援を進めてまいります。多くの市民が、スポーツ・レクレーション、地域の

伝統芸能・文化・芸術など生涯にわたって親しみ、心豊かな人生を送ることができるよう各種文化団体活動の振興支援や生涯学習環境の整備を進め、この地域の豊かな歴史・伝統文化を守り育ててまいりたいと考えております。

本市の文化を高めるための新たなイベントとして、源氏や北条氏、北条早雲、江川坦庵公などの本市の誇る歴史上の人物を生かした歴史絵巻による大時代祭の開催実現に向けて取り組んでまいります。そして、本市の中山間地に残る旧小学校を、芸術文化の振興と、豊かな自然を生かしての人材育成の場として活用してまいります。

市民がスポーツを楽しみ、新たな出会いや交流が生まれる場、そして、児童の体力づくりの場として、本市の市有地を活用し、野球・フットサル・テニス・ウォーキング・バレーボール等の施設を充実してまいります。

防災対策基盤の整備

次に、5.『防災対策基盤の整備』についてであります。防災は、太古からのテーマであります。このたび制定された『改正耐震改修促進法』については、本市の基幹産業である観光を担う、ホテル、旅館への影響も大きいことから、県や関係団体と緊密な連携を図り、事業者の負担軽減を国に働きかけてまいりたいと考えております。

また、狩野川流域の関係市町や関係機関との連携を図り流域の防災対策の点検・見直しなどを進め、自然災害から市民の生命、財産を守っていきたく考えております。

本市は、狩野川水系による水害がたびたび起きていることや、危険が指摘されている急傾斜地が点在していることから、治水、治山や砂防をはじめとする、地震・防災対策の強化、消防・救急体制の充実を図らなければなりません。そのため、現在、想定されている南海トラフ巨大地震

による液状化被害の対策と公共建物の耐震性の見直しを進めてまいります。

さらに、市内の未利用地を調査し、災害発生時の避難場所や災害廃棄物保管場所としての活用を検討するとともに、避難路や救援物資の搬送などに使用する幹線道路や支線道路についての点検整備を進めてまいります。

医療・介護・福祉

次に、6.『医療・介護・福祉』についてであります。

生活習慣や社会環境の変化等により、身体や心に不調をきたす人が増加するなか、いつまでも健康で自分らしく過ごしたいというのは、市民共通の願いであります。

私は「だれかが“疲れきってしまわないために”、手を差しのべ、支援することが行政の重要な役割であると認識しております。多様化する医療ニーズに対応できるよう、関係機関の協力のもと、総合病院や診療所等の連携体制を

緊密にし、地域医療体制を充実強化していくために、医療機関等への積極的な支援に取り組んでまいります。

また、高齢者には個々の状況やその変化に応じて、福祉・介護・医療など、継続的かつ包括的に支援できるよう、例えば、独居高齢者、老老介護者には『こ用聞き制度』など、きめ細かな支援を進めていきたいと思います。

本市には、伊豆半島だけでなく、静岡県東部における医療の中枢を担っている順天堂大学医学部附属静岡病院があります。今後も緊密な連携を図り、当病院を核とした地域医療の確保に取り組んでいきます。

行財政改革

次に、7.『行財政改革』についてであります。

以上6つの命題、重点方針を実現するための原動力は、市役所、市職員と市民であります。

まず、市役所の改革が重要

であり、職員の意識を変え、人材を育成していくことが必要であると考えております。

市の財政における歳入の根幹をなすのは、市民が納めた大切な市税であることを職員に認識させ、財政執行に当たっては、常に市民の声を聞くとともに市民の利益を考え、効果的な運営を図ってまいります。

また、行政需要の変化に的確に対応できるよう、男性・女性にかかわらず、職員個々の能力を引き出し、そこに光をあてて資質の向上を図ってまいります。さらに、これからは新しい公共という形で、市役所と市民の協働による事業を進めていくことが必要であることから、市民との情報共有を進めていくとともに、市民の市政参画の場を拡充してまいります。

結びに

このたび、『富士山』がめでたく世界文化遺産になろうとしております。世界遺産登

録に向け、静岡県はPRに谷文晁の『富士』の図を使用しました。谷文晁は江戸時代、長く韮山江川邸に逗留し、富士の絵を描きました。『富士山』の最も美しく見えるまち――『伊豆の国』をもっと県内外の人々に知っていただきたい。そして、その『伊豆の国』のあるべき姿はどのようなものなのでしょうか。

私は、4月に市長に就任し、市内外、県や国に赴かせていただき、実は大勢の方々とお話をする機会を得ました。そこで、伊豆に期待しているものは何か、伊豆に何を求めているのかを、垣間みることできました。それは、まことに抽象的な表現であります。『美しい国の顕現』であるように思えたのです。

さまざまなかで自己紹介するとき、「伊豆の国市長の小野登志子です」と申しますと、集まった人々は一様に「伊豆の国市とは、何て美しい響きなんでしょう!」と感嘆されました。『伊豆の国市』が未だよく知られていないとも言

えますが、『伊豆の国市』と聞いただけで、自然の美しさや高い文化を持ったまちを想い起こすようでありました。私は思いました。多くの方々が抱くこのイメージを大切に守り、さらに磨きをかけていかなければならないと。よく産業を起こし、文化・芸術の力をもって『品格のあるまち』をつくっていききたい。それが伊豆の中央部に生きる私たちのつとめではないかと。これからの4年間、私は先ほど述べましたように、命題に沿った方針に基づき市政にしっかりと取り組む所存でありますので、議員の皆様並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。私の所信表明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。